

「ゆめファーム全農」プロジェクト 担い手に新たな施設園芸を提案 トマト年間出荷量40トン／10畝を達成！

「ゆめファーム全農」は、JA全農が収量増大や規模拡大に意欲的な担い手・新規参入者へ、新たな施設園芸を提案するために設置した栽培実証施設です。

平成26年から栃木市でトマトの安定・多収栽培技術の試験を開始しました。5畝の高軒高ハウスで長期多段取り栽培に取り組み、成長点上部の空間確保や散乱光フッ素フィルムによる

受光改善、ICT(情報通信技術)クラウドと複合環境制御装置の活用など、最新の技術を活用し、実証栽培をすすめました。

その結果、**全国の平均推定収量は10トンあたり10トン程度であり、20トンを超える生産者は少ない中、2作連続で10畝あたり40トンの出荷量目標を達成。**27年作では小玉果の改善に取り組み、秀品率は前年作を上回りました。

「ゆめファーム全農」プロジェクトは、最適な設備や機器の選定、安定・多収栽培のマニュアル化、データの蓄積・分析により、安心して経営できる全農独自の施設園芸のパッケージ提案に取り組みます。さらに、パッケージ導入予定者の栽培実習の受け入れなど、次世代の担い手育成とネットワークづくりに取り組んでいきます。



「ゆめファーム全農」でのトマト多段取り栽培

全農が進める「たくましい農業づくり」をシリーズで紹介します。